

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901514		
法人名	有限会社 神居寿々蘭の里		
事業所名	グループホーム 喜		
所在地	旭川市高砂台8丁目3番10号		
自己評価作成日	平成24年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年5月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901514-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階
訪問調査日	平成 25年 3月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、家族様との信頼関係を築き自分の家と思い、家庭での生活の延長として安心・安全な安らぎのある生活が送れるよう取り組んでおります。特に利用者様の生活状況を毎月「身体の実状と今後の支援」・「通院記録」・「日常生活」・「四半期毎の「喜たより」にまとめケアマネージャー・各介護職員の視点で観察し家族に報告している。

また四季折々に家族や地域住民を交えた各種行事を行っており、利用者様との交流や家族同士の交流を深めている。

食事においても、自然食材を職員・家族で調達、調理し、年間を通して、利用者へ提供している。又、施設の遊休地を地域の皆様に家庭菜園として開放していきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームのリビングからは、大雪山連邦を背景に旭川の街並みが一望できる絶好の景観となっています。春には満開の桜が利用者の目を楽しませ、利用者の笑顔や楽しく語らう声、ホーム内の廊下を歩き来する姿からこのホームの理念が実践されていると感じる事が出来ます。「喜祭」やホーム前を飾る花々が地域の方の足を止め、交流の機会となっています。以前あった建物が取り壊され、跡地を有効活用しようと地域の方達と検討が進められています。運営推進会議を通して地域と話し合いが行なわれ、緊急時の協力体制も整い、避難訓練時の協力や緊急災害時の受け入れ・地下水の提供も約束されています。職員が利用者と関わる姿勢についても、人格や尊厳を大切にすることを注ぎ、毎年一人ひとりが目標を立て、振り返りや自己評価を行っています。看取り介護についても検討が進められ、家族の要望に応えられるように研修や体制作りを強化しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、介護理念に基づき地域の皆様との交流を大切にをモットーに職員が一丸となって取り組んでいる	理念を毎週職員が唱和する事で共有しています。ホームの運営理念、介護理念、職員心得がホーム内に浸透し、入居者の笑顔・職員の生き生きとした姿がそれを表しています。利用者と職員の明るい表情と賑やかな笑い声がホームに響き、生活の楽しさが伝わってきます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事に参加していただくのはもとより地域の行事にも積極的に参加している。又、施設の遊休地の活用を地域の方々で検討している	地域の方との交流は、利用者が近隣の散策時の挨拶を始め、運営推進会議の協力、「喜祭り」への参加、緊急時の協体制作り等、各方面で構築が続けられています。表記にあるホーム内の空き地活用については、今後の取り組みが楽しみとなっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症に関する理解を深めてもらう取り組みを行っている。 パンフレット、リーフレットを作成している			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を施設行事に合わせて開催し積極的に意見を取り入れ施設の運営に反映している	今年度は委員の欠席もあり、4回の開催となっていますが、次年度は事業計画の中で開催日が位置付けられ、事前に委員の方に周知が出来るように工夫し、開催が計画されています。会議では現状の報告や、緊急時の協体制作り等を話し合いサービスの向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当部署とは常に連帯を密にし、情報の交換を行っている	運営推進会議には市の担当者の参加があり情報交換、市や地域包括支援センターとは相談や訪問、窓口には直接出向いてのやり取りがあります。また、保護課のケースワーカーの訪問が頻回にあり、利用者の生活状況把握をしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については入所時に家族との話し合いで合意をいただいている その他については身体拘束廃止検討委員会で検討し、対応している	身体拘束廃止検討委員会の設置により、常に身体拘束をしないケアについて検討しています。玄関の施錠については左記の事由により家族との話し合い合意の上利用者の安全を第一としています。外出希望の方には職員が同行し要望に応じています。言葉の暴力について特に力を入れ、職員同士が防止に努める声かけを実践しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士でお互いに防止に努めている（特に言葉による虐待に注意している） 本人が気づいていない事がある			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	旭川GHケア研究会での研修を参考に身上監護や財産管理には注意を払っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学にある程度の説明をし、契約締結時に詳しく説明を行い理解を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月利用者様の近況を報告、又家族会・各種行事の参加時に意見要望をいただいている	行事を多く設定している事で家族の参加も多く、家族間での交流も続いています。面会の家族も多く、訪問時には職員が積極的に話しかけ、利用者の状況報告や意見・要望を聴けるように対応しています。敬老の日やクリスマスのプレゼントについては、家族会の協力が必須であり、家族の理解を頂いています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月末に職員会議を開催し意見を徴収し運営に反映している 又、書面で意見を提案できる仕組みも出来ている	職員は個々に年度目標を立て、振り返りと書面で自己評価をしています。施設長は面談を行い、目標の達成度を一緒に確認し、一人ひとりの想いや要望を聞く場面を作っています。職員が働く意欲と目標を持てるようにアドバイスをを行い、福祉現場の職員として働きがいのある職場を目指し、育てる一役を担っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けて個別指導・資料提供・有休等の配慮を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会に積極的に参加できるよう、勤務体制等に配慮している 又、関係図書の提供を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旭川GHケア研究会や神居地区のGH研究会又複数事業所と交流を設けている 又、各施設の体験研修を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の経歴や生活歴を細かく知ることにより、コミュニケーションを取りいかに早く信頼関係を築くか努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係はどれだけこまめに利用者様の情報を伝え要望を聞く対応が出来るかだと考える		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様が必要とする支援をスタッフ・医師・訪問看護師と家族で話し合い対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いを助け合いながら生活していることを意識し、信頼できる関係を築く事に心掛けている。どんな事でも話が出来る関係が一番		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も家族の一員であるとの考えを常に持ち家族との関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもとよりこれまで交流のあった方への各種行事にも参加を呼び掛けている。又地域の方々にも施設に立ち寄りやすい環境作りに努めている	家族との関わりやお盆や正月の帰省を、日本人としての習慣で積極的に薦めています。帰省前の打ち合わせや戻られた時の対応にも気を配っています。ホームには友人や以前住んでいた近所の方の訪問もあり、出会いも大切にしています。編み物や習字の趣味の継続、持ち込んだ仏壇の供物の支援、僧侶の「お参り」等もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が気楽に話し合える様に配慮している（席替え・レクリエーション・談話室の利用）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族であっても施設の各種行事への参加を呼びかけを行っている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理強いをせず思いや意向を把握し、意思疎通が困難なときは家族からの情報提供をいただいている	利用者がどんな考えを持っているのか、どんな思いに拘っているのかを大切に、気持ちの把握に努めています。家族の思いも大切に伺い、利用者・家族の本位に応えられるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から本人との会話を十分に行うことはもとより家族からも情報をいただいている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方のリズムを早く把握するためにこれまでの生活状況を関係者から聞き取り調査を行う			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況を職員会議で調査し家族の意向を聞き入れ全員で話し合い現状に即して計画作成に努めている 特に担当職員が中心となりまとめている	基本的に3ヵ月に1度の見直しを行っています。職員は利用者との関わりから生活の中で気付いた事を積極的に発言し、それが解決出来るような仕組みを作り、検討しています。施設長と計画作成担当が中心となり、次期計画の作成を現状に即した計画となるように話し合っています。	職員が日々行う日常の記録については、その日の健康状態のチェックや、利用者本位の計画に基づいた目標に対する内容が求められます。その記録がモニタリングや評価に繋がり、利用者の次の目標提案になります。ケアプランの意義や目標達成に向けての支援が確立できるように期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況については個人ファイルに記録し特記事項については朝の申し送りで報告し情報の共有を図り介護に活用している			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の立地条件や広さを生かしたサービスの提供に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	恵まれた生活環境を有効に活用し安全に安心して日常生活を送れるように支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの病気や主治医との関わりを密にして気軽に相談できる関係作りに努めている 特に医師から直接治療方針を得ている	医療連携体制による看護師の健康管理が続けられています。病院からの送迎で受診や往診の体制も確立しています。かかりつけ医への職員同行で受診もあり、適切な医療が受けられるように支援されています。受診後の報告も適切に家族へ行われています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の指示や訪問看護体制による週1回の訪問と24時間体制での相談対応で適切な支援を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通しての入院であり病院の関係者との関わりは非常に良好でどんな事でも相談できる状況にある		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に終末医療について十分に話し合いを行っており施設で出来る範囲を確認している 又、家族が希望すれば医師、家族、施設で話し合い終末医療の対応も可能である	医療連携体制と医師との連携、各科の往診もあり終末期の受け入れは適切な対応がとれる支援体制に努めています。「看取りに関する指針」も細かく再整備し「看取り介護」の同意書が取り交わせるようになっていきます。家族とは時期をみて話し合い、職員研修の充実を図り要望に応えられるようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間対応の訪問看護ステーションの活用や職場内研修を行い方が一に備えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・災害の避難訓練を度々行い無意識に体が反応する様になっている 又、運営推進委員が中心になり地域にも協力体制をお願いしている	年2回、日中夜間想定で避難訓練を行っています。スプリンクラー・緊急通報システムの設置、通報訓練や設備会社の協力で総合訓練も行っています。運営推進会議を通して地域の協力、見学もあり、避難の受け入れや地下水の提供なども約束されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の性格を十分に理解し、お互いにコミュニケーションを取り合える関係作りに努めている 特に言葉の大切さを気を付けている	一人ひとりの人格と尊厳を大切にして、職員は名字を呼ぶ事を基本に日常支援しています。利用者とは同じ目線で話しかけ、職員は腰を落とす事で利用者信頼関係が保てるように心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者と話しやすい関係作りに努め、自己表現や表現が理解できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべて利用者側に立った介護を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に沿った身だしなみを心掛け毎朝身だしなみのチェックを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の食材を収穫したり調理をしながら季節感を十分に味わってもらえる様に努力している 又、食事の色合いにも気を付けています	職員が交代で調理し、1、2階の食事を一緒に作っています。職員は利用者が気兼ねなく安心して食事ができるように見守り、介助、美味しく頂けるように声掛けや会話を楽しんでいます。食卓には漬け込んだ山菜の煮物やダイコンの漬物が惣菜のひとつとして並んでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	通常の食事量や水分量については把握しており必要に応じて対応している栄養バランスについても主治医に相談している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内のうがいや義歯洗浄を食後に行い常に汚れや匂いが生じないように支援している			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄リズムを知る事により、トイレでの排泄がスムーズに出来るように又自立排泄に向けた努力を行っている	トイレ排泄を基本に、人としての尊厳やプライバシーに配慮した排泄に心がけています。トイレ排泄をすることで年を重ねても自信に繋がるという気持ちを大切にしています。体調不良で入院し、退院後の改善に向けての対応も力を注いでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ便秘しない様に食物に注意するのはもとより適度な運動や水分補給に心掛けている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回と決めているが体調や気温、通院等の状況を考慮して対応している	火曜日と金曜日に入浴日を決めていますが、身体状況や通院日に配慮した対応もしています。入浴を拒む利用者には、声掛けの工夫や時間・別の日に変更するなどして入浴を楽しんでもらっています。同性介助などの希望にも応えています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に応じて昼間の活動をセーブしているが寝付けない時には、職員がしばらく話し相手になるなどの支援をしている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が個々の服薬の状況を共有し、直接口に入れ完全に服薬したことの確認を行っている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を熟知し、日常生活の中でそれを活用し、手伝いや遊び等に活用している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には施設周辺の散歩や近所の公園にも出かけている 又、利用者の希望により近くの商店へ買物等に出かけている	年次計画事業報告書には、外出行事を含め様々なイベントが計画され、利用者が健康維持に努め季節毎に観光が出来るように配慮しています。冬場もホーム内で片道50mの廊下を行き来する事で体力維持に自ら努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品の出張販売で自ら買物していただいている。出来ない人には職員が対応している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力で電話を設置し、家族との絆を大切にしている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋からの展望は市内が一望でき、四季折々の景観が楽しめる又食堂や娯楽室は入居者同士の交流の場として安心して過ごせるように工夫している	利用者の殆どが、日中をリビングで過し毎日繰り広げられるレクリエーションを楽しみにしています。ベランダから見える景色には、満開の時期には見事な桜が見られると思われる広大な庭があり、その様子を想像させてくれます。室温や湿度を配慮する事で利用者が快適に過ごせるように工夫し、季節を感じる事が出来るように切り紙や折り紙で装飾しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室・喫煙室・談話室を活用して気分転換が出来るように配慮している			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋の広さを活用し自分なりに好きな様に家具を配置したりして居心地の良い空間づくりをしている	既存の建物を改修した経緯もあり、各居室は広さや造作も違い、利用者は個々に応じた居室の配置を楽しんでいます。居室から見える旭川の街並みが慣れ親しんだ地域の風景として心に沁み、安らぎを感じさせてくれます。使い慣れた家具や寝具、大収容の押入れには沢山の衣類が収納され、居室として居心地良く暮らせる空間となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に手すりを設置し自由に安全に行動できるように配慮している			